



## イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

### 第 600 回 お金では買えないもの

2014.10.26

ネットでこんな記事を見つけた。アメリカの話である。

1960年代と1970年代初期に、大学に行く理由を尋ねられた学生の大半は、『教養のある人になること』や『人生哲学を持つこと』が最も価値のあることだから、と答えた。

『大金持ちになること』を大学に通う主な理由と考える者は少数派だった。

しかし1990年代からは、学生の大多数が、大学に行く最も重要な理由は『大金持ちになること』にある、と言う。……

マダラン・ラバイン博士著『成功の代償』より

こんな若者が実業界で少し注目されると、その傾向が益々顕著になる。

我国も決して例外ではない。過酷な労働条件を強要し、従業員を自殺まで追い込ませる

「**ブラック企業**」、えっと思うほどの有名大企業が名を連ねている。

そこまでして「儲け」に徹し、しかもその多くの経営者は、自分だけは信じられないほどの高給を平気でとり続けている。従業員を犠牲にし、余財を独り占めするかの如きその姿勢は、経営の価値観が変わってしまった、経営者の資質が地に堕ちた…そんな感が強い。

役員報酬の「報酬」の字はどちらも「むくい」（報い・酬い）の意味である。「報いる」はそれに**見合うだけのモノ**を返すという意味で、それ以上のモノを独り占めすることではないはずだ。

「**武士は食わねど、高楊枝**」…オヤジからそう言われ続けてきた小生の「帝王学」からすれば、愚の骨頂！

哀れな成金たちと言わざるを得ない。世界に冠たる日本の武士道には、そんな価値観があった。

昔はこんな連中を「**守銭奴**」と言ったものだ。金を溜め込む事、金銭そのものにばかり執着し、必要な場合にすら金を出さない（出したがらない）人物のことを指し、吝嗇家（りんしょくか）、金の亡者とも呼ばれたものだ。

一流と言われる大企業の経営者に、こんなタイプの社長は一人もいなかったような気がする。

真の豊かさはお金では決して買えないこと、もう一度思い出していただきたい！

お金で「家」は買えるけれど、「家庭」は買えない。  
お金で「時計」は買えるけれど、「時間」は買えない。  
お金で「ベッド」は買えるけれど、「快適な睡眠」は買えない。  
お金で「本」は買えるけれど、「知識」は買えない。  
お金で「名医」は買えるけれど、「健康」は買えない。  
お金で「地位」は買えるけれど、「尊敬」は買えない。  
お金で「血」は買えるけれど、「命」は買えない。  
お金で「セックス」は買えるけれど、「愛」は買えない。

（『世界一愚かなお金持ち、日本人』、メンタルコーチ：マダム・ホー著）